

平成30年度第1回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

平成30年10月16日（火）午前10時開会 午前11時45分閉会

II 開催場所

渋川市役所本庁舎3階大会議室

III 出席者

【構成員】高木勉市長、中沢守教育長、高橋秀和教育長職務代理者、新井光久教育委員、高橋秀樹教育委員、狩野美喜子教育委員

【市長部局】小野総務部長、酒井総合政策部長、諸田保健福祉部長、角田財政課長、石田スポーツ課長、福田社会福祉課長、中山こども課長、儘田新政策課長、事務局職員2名

【教育委員会】石北教育部長、藤岡教育総務課長、高橋学校教育課長、田中学校給食課長、萩原生涯学習課長、島田文化財保護課長、飯塚学校教育課指導係長、担当職員2名

【傍聴者】 2名

IV 会議の概要



1 開会

新政策課長	皆さん、こんにちは。本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今から、「平成30年度第1回渋川市総合教育会議」を開会いたします。 この会議の進行を務めさせていただきます、新政策課長の儘田と申します。よろしく願いいたします。
-------	--

2 市長あいさつ

新政策課長	それでは、開会にあたりまして、高木市長から、ご挨拶をお願いいたします。
高木市長	皆さん、おはようございます。 第1回の平成30年度総合教育会議を開催いたしました。教育長さんを始め教育委員の皆様には、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。 総合教育会議は、地教行法が改正されて、教育委員会の独立性はしっかり担保しながら、教育委員会と、そして市長部局が連携をしてやっていこうと、こういうことで作られまして、その後色々な制

高木市長	<p>度も変わってきておりますけれども、方向は、教育委員会と市長部局が一緒になって教育にあたっていこう、そういうことだと思います。社会教育なども含めて生涯学習も含めてしっかりと連携しながらやっていきたいと思ひます。</p> <p>教育長さんも変わられまして、そして教育委員さんも変わられましたので、是非色々な意見を出していただき、渋川の教育が良くなるように、教育都市渋川と言われるような街になるようにしていきたいと思ひております。</p> <p>総合教育会議も回を重ねて、形骸化していかないように、活性化を図っていけるように、皆様のご協力をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。</p>
新政策課長	ありがとうございます。

3 教育委員長あいさつ

新政策課長	<p>続きまして、教育委員会中沢教育長より、ご挨拶をお願いいたします。</p>
中沢教育長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>まず、総合教育会議の冒頭、今年度地震によってブロック塀倒壊、そういうことの中での対策として、9月補正に早速学校の安全確保に予算措置をしていただきました。大変ありがとうございました。</p> <p>また、学校の緊急安全対策や、猛暑対策として、エアコン設置の前倒し等の施策にご指示をいただき、心より感謝申し上げます。</p> <p>総合教育会議は、今市長もおっしゃられたように、市長部局と教育委員会が互いの意思疎通を図り、教育課題や、あるべき姿を共有するための協議、及び調整の大変貴重な場と認識しているところであります。今日も学力向上という教育の本質的な課題があがっていますので、この点につきましても、共通認識が深まりますよう、参会の皆様、どうぞよろしくご協議の程、お願ひ申し上げて挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。</p>
新政策課長	ありがとうございます。

4 委員等の紹介

新政策課長	<p>次に、次第の4、委員等の紹介に移らせていただきます。</p> <p>本日は、今年度初めての会議となりますので、委員等の紹介を自己紹介という形をお願いいたしたいと思ひます。</p> <p>委員の皆さま方から、委員名簿の番号順に自己紹介をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">【委員自己紹介】</p>
新政策課長	ありがとうございます。

5 議 題

新政策課長	<p>ここで、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、平成30年度第1回渋川市総合教育会議次第、出席者名簿、当会議の設置要綱、渋川市立学校の児童生徒数および学級数、資料No.1「平成29年度渋川市決算概要」、資料No.2-1「平成30年度主要事業（抜粋）」、資料No.2-2「第2次渋川市総合計画実施計画書」、資料No.3「渋川市における学力向上について」、それと、本日当日配布資料としてお配りいたしました、「随想 ピンチをチャンスに変えて新時代を切り拓く」こちら冊子の写しが一つ、それから、新聞報道で「国語教育について考える」、それと「教育都市渋川をつくるために」が一枚、追加資料がございます。</p> <p>資料の不足がございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
新政策課長	<p>本日の会議でございますけれども、本日の会議を傍聴したいとの申請が1名の方からございました。</p> <p>本日の会議は公開の会議となりますので、これを認めることについて、ご異議はございませんでしょうか。</p>
出席者	はい。
新政策課長	<p>ありがとうございます。異議なしとのことですので、傍聴することを認めさせていただきます。</p> <p>それでは、傍聴を希望する方に、ご入室いただきます。</p>
<p>【 傍聴者入室 】</p>	
新政策課長	<p>それでは、議題に移らせていただきます。</p> <p>渋川市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、「市長は、会議の議長となる。」とされておりますので、この後の進行につきましては、高木市長にお願いをいたします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合上、発言をされる方は、氏名をおっしゃってから、発言されますようお願いいたします。</p> <p>では、この後の進行につきましては、高木市長にお願いいたします。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
高木市長	<p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>(1) 平成29年度決算概要報告</p>	
高木市長	<p>議題(1)「平成29年度決算概要報告」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">●【総務部長説明】 【資料No.1】</p>
高木市長	事務局の説明が終わりました。

	<p>決算概要につきましては、教育関連事業を中心に説明させていただきました。</p> <p>ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>幼稚園に養護教諭が1名いると書いてあったのですが、保育所等に養護教諭は配置されているのですか。その辺を教えてくださいと思います。</p>
こども課長	<p>保育所ですと、民間の北橋保育園には看護師さんが配置されておりますけれども、養護教諭という配置はありません。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>看護師さんは、全部の保育園で配置となっているのですか。</p>
こども課長	<p>いいえ、北橋の保育園だけです。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>北橋だけですか。是非、子どもの健康面で、幼稚園もそうですが、保育所も同じだと思いますので、健康管理がよくできるように対応していただければと思います。</p>
高木市長	<p>他にございましたら、お願いいたします。</p>
高木市長	<p>よろしいですかね。</p>

(2) 平成30年度各種事業の取り組みについて

高木市長	<p>次は、議題(2)「平成30年度各種事業の取り組みについて」に入ります。事務局から、説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">●【総合政策部長説明】 【資料No.2-1、2-2】</p>
高木市長	<p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>今年度事業の教育関係を中心に説明をさせていただきました。また、補正により追加となりました事業につきましても、併せてご報告させていただきました。</p> <p>これらについて、ご質問やご意見をお伺いします。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>学校給食のアレルゲン対応だとか、準保、要保の家庭への援助、地震対策安全確保、英語教育の推進と、みなとても良いものばかりなので進めていただきたいと思います。この中で、保育所に預ける子どもは第二子から無料とあるのですけれども、子どもが沢山いる家庭への援助と書いてありますが、幼稚園の方にまで広げていくというような予定はあるのでしょうか。これは、幼稚園だから学校教育課なのかもしれないが、どうなのでしょう。無料化を、他の子どもへも進めていけるものなのかどうなのか、その辺のことをされる予定なのか、わかれば教えてくださいと思います。</p>

保健福祉部長	<p>保育料の無料化につきましては、本年度は第二子で進めていっているところでございます。これまでの流れでは、第三子が無料化でございまして、第二子につきましては、六割軽減、実際は四割負担ということでございます。これは、保育所でございまして、幼稚園につきましても同様に無料、無償化しているところでございます。</p> <p>また、今後につきましても、さらに国の方の施策で無料化されるところでございますけれども、国の方向を見ながら、独自の施策の検討をしたいと思っております。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>ありがとうございました。</p>
高木市長	<p>その他、ございましたらお願いいたします。</p>
狩野委員	<p>先程、高橋職務代理がおっしゃっていた保育料の無料化、そして、幼稚園も無料化ということなのですが、子育て世代にとって、昔は何人も産んでも結構子ども同士で遊んでいてそんなに高い教育ということもなかったのですが、経済的に、家はもう子どもはやめるなんてことはなかったのですが、今子育てはすごく経済的に負担が掛かっている。そういった中で、無料化というのは、子育てをしていく人達にとって、とても魅力的なことなので、是非、充実して続けていただきたいと思っております。</p> <p>それから、もう一つ質問なのですが、資料の3ページなのですが、けれども、新規事業です金井遺跡のことが書いてあるのですが、けれども、渋川市は、ここだけに限らず色々な遺跡とか古墳とかが沢山ある地域なので、教育という面でこういった新規事業を益々推進、或いは活用をしていただいて、その地元にある遺跡や、そういった過去の価値あるものを子ども達の教育の中にも絡めながら活かしていただくと、自分の育った町を愛する一つになるので、是非この事業を推進して、そんな視点で進めていただければありがたいと思ったので、よろしく申し上げます。</p>
高木市長	<p>狩野委員の、文化財を使って教育の場でも子ども達に教えていたらどうですかということですが、私も同感だと思っているところでありますけれども、教育長、どうですか。</p>
中沢教育長	<p>市長からもかねがね渋川の遺跡等を使い、誇りを持てる市にしていきたいという意向も伺っているところで、私もその様に思います。今、金井遺跡活用事業につきましては、教育委員会だけではなく、全庁的な組織もできて、これをどう活用するかということで、これは総合政策の方で取り組んでいただいているところです。教育委員会としては学校教育の場で、子ども達にそういうものが渋川市にあるんだということをわかりやすく説明し、そういう市に自分達も住んでいるんだなと誇りを持てる教育を進めていきたい。またそれだけではなく、渋川市には過去の人材といいましようか、誇れる人もいますし、歴史ある史跡、文化財等、沢山あるわけで、それらを子</p>

ども達に教えることにより、市民として全員が知ることになるであろうと思います。それがやがて県内外の方達がそういうものを知ることができるというなど考えています。

人口対策でもありますがけれども、まずは渋川市民として誇れるものがある中に住んでいるのだということを知っていただければなどと考えています。

高木市長

教育長の考え方も、今話しがありましたけれども、私も市民、特に子ども達に自分たちの地域がどういった魅力があるか、どういった財産があるか、そういう歴史的な価値というものを改めて良く理解をしてもらえるような教育なり、教育以外のところでもそうですけれどもやっていきたいと思っています。やはり、渋川市民であるということに誇りを持って、シビックプライドという言葉も最近使いますけれども、そういうものをしっかりと子ども達のうちから身につけてもらえるようにしていく、そのことが渋川市の将来の発展に繋がるのではないのかなと思っていますし、人口減少対策にも繋がっていけばいいのではないかと思います。

それから、教育長が今話された渋川の偉人ですね、渋川の発展のために色々な力を尽くされた人達、そういった人達が、合併してそれぞれの地域にいますのですけれども、なかなか渋川全体として、渋川の発展のために尽くされた偉人というものを取り上げる機会がわりと少なかったという気がいたします。例えば、旧渋川町で言えば、堀口藍園さんですね。私塾を開いて色々な人に教育を施した、そういう人もいますし、渋川の産業の発展の元になった電気化学工業を起す、その産業の元になった浅野総一郎さんの佐久発電所の事業とか、それに係わる関東4社、そういったものを含めて紹介したり、或いは、スポーツでは子持の地区で、佐藤次郎さんというソフトテニスのプレイヤーがいました。これは、昭和の初めに世界大会に出て行って、日本の国威発揚にも使われた面もあったのですが、今の錦織さんを越える世界一の日本人としてのプレイヤーがいた、そういうことも一つ、一人だと思います。その他、日本学を教えたドナルド・キーンさん達に日本文学を教えた角田柳作さんですね、旧赤城村です。そういった人達が合併して色々な地域におりますので、そういった人達に光を与えるような機会を、どういう形がいいのか、記念できるようなコーナーを作ったり、資料を作ったり、そういうことができればと思っていますので、教育委員会と相談しながら進めて行きたいと思っています。

高橋委員

今、市長から貴重なお話を聞かせていただきましたが、灯台下暗しでございまして、教育長からお声がけをいただき、金井東裏遺跡や県の埋蔵文化財調査センター、市の北橋歴史資料館を初めて拝見させていただきました。実感として思ったのは、縄文時代がすぐそこに、隣にあるということが、はっきり実感できました。そして、素晴らしい土器が東京の国立博物館のメインの会場でスポットライトを浴びて展示されているということ、それから市長もおっしゃっているように郷土に、歴史を誇りをということですのですけれども、京都

高木市長	<p>や奈良の子ども達というのは、自分達のふるさとというか、地元の歴史を語ることが、そのまま日本の歴史を語ることなんだと非常に誇りを持っているというお話を聞かせていただいて、群馬県も縄文の時代から、色々遺跡が発見されましたけれども、人々がここで生きていたという、そういう実感を子ども達にも持ってもらいたい。授業で取り入れられているかわかりませんが、体験が一番実感に残ると思いますので、漏れ無く渋川市の小中学校の子ども達に見ていただければと思います。</p> <p>それから、浅野総一郎さんの話も出ましたが、私も佐久発電所という名称が奥様の名前だとは知らず、地名だと思っておりまして、今更ながら郷土のことを知らないんだということを思い知らされましたので、その辺の掘り起こしというか、そういったところも注意していければと感じました。</p> <p>是非、ハード、ソフト、両方の面から渋川の郷土、歴史を伝えていける、そして皆さんが、皆で共有できるような機会ができるといいと思っておりますので、できればふるさと歴史館みたいなものを新しい建物で作るのではなくて、既存の建物の中にでもそういったものができるいいと思っております。</p> <p>それから学校の現場で、これは教育委員会の世界ですけども、そういったものを副読本みたいなものでできればいいと思います。子ども達に読んでもらえるようなものは、大人もわかりやすいので、是非市民にそういったものができたら配ればいいと思っております。</p>
(3) 学力向上について	
高木市長	<p>それでは、議題（3）「学力向上について」に移らせていただきます。入ります。</p> <p>教育部長から説明をお願いします。</p>
<p>●【教育部長、学校教育課長 説明】 【資料No. 3】</p>	
高木市長	<p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>学校における学力向上への取り組みの他、地域や家庭における取り組みなど、様々なことが考えられると思います。</p> <p>この総合教育会議でも学力向上について、教育委員会だけではなく皆さんの意見を出していただいて、渋川市の子ども達の学力が一層向上すればいいと思いますので、ご意見をお伺いしたいと思います。今、学校教育課長から細かい説明がありましたけれども、これにかかわらずご意見がありましたらお願いいたします。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>(1) に学ぶ楽しさと書いてあるのですが、やはり子どもは、私も授業をした経験があるけれども、何か勉強をしてわかった時に「へえ」とか、「ああ、なんでこうなったのだろう」と次へ向かうとか、色々子どもの表情や行動を見ていると感じ取れるのですが、子どもはやはり「面白かった」とか、「そうだったのか」とか、新しい発見や次へ繋がるものが授業にないと、それで終わりになってし</p>

まうと思うのです。ここに書いてあるとおり、学ぶ楽しさを味わわせるって、とても大切なことであると思います。基本的なことを定着させるという様なこともあるのだけれども、この楽しさが味わえるということは、その授業だけでなく次の授業、また次へ進学してからとか、自分が大人になってからも生きてくる。ここに書いてある説明の中にもありますように、「生涯に渡って豊かに暮らすための学ぶ力」というのが、渋川市としての学力の捉えとあるのですけれども、そういうところへ必ず繋がると思います。ただ、そのためには教員がしっかり準備しなければいけない。ただ教科書を見て教えるだけでは、全然喜びもなければ、面白みも無いので、そうではなく常識的に子どもから考えて当たり前と思うことではなくてそうじゃない教材を準備したり、それで授業を行うことが、とっても大変になってくると思う。そのために必要なことは何かというと、日常的に「こういうことを教える時はどんな準備をすればいいのだろう」「子どもは何を聞くとびっくりしたり喜んだりするのだろう」ということを常に家に帰っても、学校にいても考えて、準備する時間を確保しないとイケないんだと思います。そのために、今日前半でお話があったようにALT英語の補助だとか、部活動の支援というのがでてきましたけれども、特別支援教育の支援員とか、マイタウンティーチャーだとか、全部市の方の取り組みに盛り込まれていますけれども、そういう人的な支援ですかね、ブラックスクールとは言わないけれども教育多忙化とかでてきていますけれども、教材研究をする時間、それがとても大切だと思うので、それを支援するような市の活用、取り組みを是非お願いしたい。

高木市長

学ぶ楽しさを支援していくということは、大事なことだと思いますけれども、ご意見がありましたらお願いいたします。

狩野委員

教育委員の中で、皆さんと先輩方と話をしていた中で、今回テストで良い点を取ったと、渋川の子達は学力が高いと見るのはちょっと危険だよねって、話をさせていただきました。というのは、私達皆で教育を確認したのですけれども、学力をここだけの視点で見るとちょっと違うのではないかと、もう少し他のところで生きる知恵を学ぶとか、色々な体験をとおしての、テストでは点はでないけれども、でも人が育っていく中で教育は、そこも一緒にしないとやっぱり片手落ちになるよねということ先輩の委員さんに言われて、私もなるほどと思った次第です。それで、そういう視点で考えるとですね、学力向上についての1ページの1の(2)に2本線であるのですけれども、個性を生かし多様な人々との協働をとなると、やはり地域の色々な人材の方にご協力をいただくということもあるでしょうし、それからその下の学習の基礎をつくる活動の充実するということに関しましては、今すぐく情報化時代で、色々パソコンを使う機会が沢山あるので、できればここを環境の整備ということで、そういった器具を各学校に充実させて整備していただければなという気がいたします。それから、家庭との連携ということの中に、学習習慣は家庭習慣というようなお話をいただいたのですが、ただ、

家庭との連携、今非常に家庭がですね、色々な形態の家族が増えているのですね。ですから、その必ずしも親が家庭教育として、しっかり子どもと向き会える家庭ばかりでは無くなってきている、そこを補足するおじいちゃん、おばあちゃんが同居しているという方も少なくなっている。片親も多くなっているとなってくると家庭との連携を図っていくのには、やはりそこで抱えている問題を具体的に気安く相談できるような、窓口はやはり教育委員会の中でも考えて、というのも教育委員になってから三人位から相談があると言われ、お聞きすると、かなり具体的なことです。「障害を持った子が特別支援員を付けてもらったのに4年になったらいなくなっちゃった、どうしてなんですかね。理由を聞いていないんです。」それから、「うちの子が特別支援学級に行っているのだけれども、とても良い先生に教わっている。だけど、どうも契約が3年で来年の3月で終わる。どうするんでしょう、その後うちの子は。どうしたものでしょう。」と、本当にきめ細かな相談がくるんです。私は、受けるだけなので、教育委員の仕事って考えたら繋げていくことかなと。今日そんな話をさせていただくのは、そういった窓口を教育研究所という素晴らしい機関があるので、そういったところに、誰でも気軽に、あそこに行くといいよって、私も答えられなくて学校教育課にお聞きしたら、こういう風に答えただけだとされたのですけれども、ここへ行くといいのではないですか、というような所があったらなと思ったので、そんなことも思いました。以上です。

高木市長

ありがとうございます。そういう窓口ですかね、抛り所があるといいなと思いますけれども。どうですか、教育研究所長をされた教育長。

中沢教育長

今、二つのことが話題となっていると思うのですが、一つは、学ぶ楽しさを味わわせるということで、その辺が大事というような後押しをいただいている様な気がするのですが、私は就任して今五ヶ月に間もなくなのですが、8月に幼・小・中の先生方が全部集まる講演会があって、前段のところ少し時間をいただきまして、その場で、私達教師はこれではないかということ、先生方に話をさせていただきました。その中で学校の教師は、学ぶ楽しさを味わわせるプロなんだと、そういう意識を持ってもらいたい、そういう話をしました。点を取らせるためのということであるとすれば、そこだけを狙うのだとすれば、外部の先生だとか家庭教師だとか、そういうふうなこともあるのかもしれませんが、学校でできるのは点を取らせるだけではなくって、生涯にわたってそのことを学べるような、そういう楽しさを味わわせる、そのために私達は教師になったのしょうという投げかけをしました。先生方は、本当にうなずいてくれたと思うのですが、そこが、プロでないといけない、そういう授業なんだなと思っています。そのところは、絶対失ってはいけないと、そのためには教科書と黒板だけでは教えきれない、そういうものがあると思います。様々な機器や、あるいは、教材の提示の仕方、流れ、授業の組み立て、そういうところに、見

えないところだけでも、教師は研究を深めていかなければならない、日々新しい授業を研修していかなければならない。そのために、時間をかけていただきたいと思います。なかなか時間が取れないと悲鳴の様な声も聞かれますけれども、私は、そここのところを大事にしなければ教師になった意味がないんじゃないかな、と話をさせていただきました。学ぶ楽しさを身に付けた子ども達は、自分から勉強するようにもなるし、生活習慣も正していけるようになるんだ、そこに繋がると思っております。

それから、その相談事業に関しましては、私も教育研究所にいた関係から教育相談というか、保護者や子ども達、或いは教師自身の、或いは管理職の相談が、年間4、500件の相談があるというような状況が今も続いています。これは、やっていて良かったとか、こういう場所があつていいな、もう少し認知させていないといけない、というふうなところがありまして、狩野委員のおっしゃるとおりです。要するに、これはどこに繋げたらいいのかとか、或いは、その人自身の振り返りをしていただくような、そういった技をもった専門委員の人を今配置しているわけですがけれども、その辺の充実は、今後図っていただきたいと、場所がどこにあつてどういうものというのが、全市民に認知されるようなそういうところを作っていくというふうにご考えております。

高木市長

他にご意見は。

高橋委員

学ぶ楽しさを味わえる授業とは、これが自分で実感できればもっとましになっていたのかなと感じて、大変難しいテーマだと思えますけれども、とにかく子ども達にとっては、学校が第一に面白くなければならないんですよね。学校に行くのが楽しい、面白い、不登校とかいじめの問題とかあるかもしれませんけれども、面白いということはやっぱり毎日の授業がよくわかる、体育や音楽、そういう特殊な科目は楽しさを味わえるかもしれませんけれども、先生の言っていることが本当によくわかる、要するに勉強ができると言ってしまえばそれまでなんですけれども、そういったことを実感できるような授業といいますか、それが今皆さんがおっしゃったと思うのですけれども、しかも学力向上と、それから教育長が言っている教育都市渋川を作るということでは、やはり学歴という点と点数とかですね、動機付けというか強制というか、80点はぜったい取りなさいよとか、目標がないとなかなか勉強もしない。ただそれだけでは点取り虫になってしまうので、本当に学ぶ面白さを知ってそれを実感できるそういった力を身に付けた子が本当の学力のある子なんだと、これは生涯にわたって豊かに暮らすための学ぶ力というふうになっておりますので、ただ単に勉強ができるだけではなく、学んだ実感として楽しい、面白いとそういったことが自分でわかる子ども、実感できる子どもを育てていかなければならないのかなと思いました。それから、もちろん学校教育ということなので、生徒の側もそうですけれども、一方で先生がいらっしゃるということで、先生自体も何を教えてもあまり学力が伸びないとか、わかってくれないのかな

ということでは駄目で、お互いにやはり生きがいというか、職業ですから、生きがいとやりがいと努力のしがないと、子ども達にも両方でやっていく、そのコラボが学校教育ですから、その辺のグループで、子ども達同士、児童同士、生徒達同士で学ぶ力もありますし、先生から教わって納得できるという力もありますし、人と人との係わりの中で、やはり教え、教えられ、学ぶ、というところが学校の楽しさなんだというのを知ってもらう必要があると思うのです。それには、高橋職務代理者がおっしゃるように、先生に教える工夫とか、職人技のような、そういった能力も求められてくるし、先生によって皆さん個性が違いますから、その辺をお互いの努力で培っていくことが必要なのかなと思います。とにかく、勉強しろ勉強しろと言うことだけではなくて、生徒自体が面白い、内発的というか気付き、それがないと学力も伸びませんし、本当の意味での力、というものも付かないと思います。皆さん、本当に努力されていると思いますけれども、その辺の力を皆さんで培っていければなあと思っております。以上です。

高木市長

ありがとうございます。

新井委員

学ぶ楽しさということですが、PTAの現役でいるものですからそういった部分も感じながらになるのですが、子ども達は反応をして欲しいのだと思います。もちろん、学校の先生は子ども達にとっての先生なので、係わるということが根底にあると思います。ただそれが係わるという表現になるとですね、どうしても畏まってしまったりですね、こういうことを教えなければいけない、こういうことを教えることが使命なんだと感じ取れてしまう場面が多分あって、それはちょっと違う方向にいきかねない、リスクも兼ねているのかなという思いの中から、反応してあげる、例えば挨拶ですね、「おはよう」と言ったら「おはよう」と言ってあげるとか、ちょっと違うことをしたら「それはちょっと違うんじゃない」と言ってあげるとか、反応してあげるということが、学校に通う意欲、授業に望む姿勢、生活をする、より健全な生活をしていく心の状態を作ってあげるとか、そういうことに繋がるのかなというふうにも思いますし、それは学校の教育現場だけではなくて、我々も色々な場面で子どもに携わる触れる機会があると思うので、その子どもからの働き掛けに対して反応してあげるということが、一番の教育現場というか教育授業に繋がるのかなと思いますし、そういった中で、子どもに係わっていける大人が一人でも多く増えていけば、本当に市長が言われる教育都市渋川の礎を築くことができるのではないかなと日頃から思っております。家庭との連携を図りながらと二番目に書いてございますけれども、私も教育は本当に大事だと思っております。私が思う教育は、というところですけども、共に学びあうとか、共に教えあう、共に育つ「共育」というふうな書き方もできるのかなとも思いますし、あらゆる場面です先程来から皆さんのご意見にありますけれども、助け合ったりですとか、関わり合ったりですとか、協力する育、「協育」というふうにも捉えることができると

思いますので、そういった意味では、教育というのは、私が思うのには三つの捉え方ですかね、読み方というのですかね、そういった捉え方をしながら子どもに係わっていく、教育現場に係わっていくということが、大事なのではないかなと日頃から思っておりますので、PTAの現場が残り少ないですけれどもありますので、そういった形で、私も子どもを持つ親として、また地域で子どもに係わっている立場として、その思いでやっていければと思います。

高木市長

ありがとうございます。

「教育、学ぶ楽しさ」というのがキーワードになっているようですけれども、論語で「学びてときに之を習うまた説ばしからずや」という言葉を子どもの頃は意味がわからなかったのですけれども、やはり学ぶ楽しさと学力向上というのが、相対するということでしょうか、トレードオフの様な関係になって、学力向上で、勉強して点数を上げろということが、学ぶ楽しさを削いでいってしまうという、そういうことが、それが小さい子、小学生の低学年に英語を教えろと、上手にかみ合って英語を学ぶのが楽しいと言ってくればどんどん伸びていくのかもしれませんが、一方で、英語嫌いを作ってしまうようなこともあるのではないかと、そういう意見もあると思いますけれども。

この前、上毛新聞の広場を見ていましたら、国語教育について考える、渋川市の人だったのですが、村上詩織さんという19歳ですから大学生ですかね、国語教育についてちょっと書いていましたけれども、これもテストをすると答えが1つになってしまうので、×か○かみたいな話になるという、文章を読む楽しさがかえって削がれるのではないかというようなことを言っているのだと思いますが、どうしても学校というのは、テストで評価判定していかなければならないのですが、そのことと教育の本質ということとがどういうふうに関係できるのかなという感じの難しいところなのでしょうけれども、なまじ楽しさが身につくと学力が上がっていけば、丁度上手にかみ合っていけば良いのだと思いますけれども、そのかみ合いが上手くいくようになるように、私なんか上手くいかなかった方なのだから英語嫌いじゃないけれども、勉強嫌いになってしまって、大人になってみると学ぶ楽しさというのを感じとしてわかってくる気がしますけれども、子ども達の頃に学ぶ楽しさをどうやって教えて、どうやって身に付けてもらえるのかなと、難しいことですよね。そこが教育のプロの世界かもしれませんが、感想ですけれども。

評価というものは、公務員月報というところに書いたのですけれども、これは学校教育ではなく、職場に入って色々良いことをやってもなかなか批判を受けると、80点取れば20点批判されるし、95点取れば5点指摘されると、それが仕事だと思うのですけれども、その批判を間違ったことを力に変えていく批判があったのだから、反応してくれたのだと、さっきの新井さんの話ではないですけれども反応があるということを変えると、そしてまた面白さに変えていければいいなと思うのですけれども、子ども達ですから、批判されたり間違っただけで怒られたりすれば、「よし今度はやってやろう」

という人と、「もう勉強も嫌だ」という人もいるかもしれませんがけれども、そういう力を付けていくかいけないか、その境目が若い子ども達の頃だと思えます。教育は難しいなと思えますけれども。

中沢教育長

市長が出してくれた新聞の記事について、よくぞこれをピックアップして下さったなあと思いました。村上さんが言うように国語の授業に最後はテストで残念な気持ちがあったのだと思います。ただ、本人が国語を楽しいと思える子どもを増やす活動を行っていくべきだと最後にありますが、まさにそのとおりだと思います。ただ、それを入試だとか最後に判定するには、マークシートで採点をしなくてはならない、そんな中で個々の考えを拾ってあげられない、そういう状況は確かに現実としてあると思います。そこに難しさがある。ただ我々は、我々はというよりも指導する国語の楽しさを教える教師は、だからといって諦めて点の取り方だけを教えるような、そんなことにならないでほしいと思います。

私が自分の信念として、これは、ウィリアム・アーサー・ワードという人が言ったものですが、「凡庸な教師は、しゃべる。良い教師は説明する。素晴らしい教師はやって見せる。偉大な教師は、子どもの心に火を付ける」と言いますね。そこでしようと、私は思いますね。子どもの心に火が付いたら自ら学ぶ子にきつと育つんだろうなど、その信念だけは曲げたくないなど、そう思っているところです。この村上さんがおっしゃるような楽しいと思えるその授業をするために、私はやはり教師は、全身全霊をつくすべきだと思います。現実に対応するということはもちろん大事ですが、そのところを絶対に曲げてはならないと思っています。

それから、家庭との連携の中で、渋川市が行っている子どもの学習支援授業に期待をしているところもあるのです。学習習慣の確立というところにいくのですけれども、生活保護受給世帯、児童扶養手当受給世帯の中学生等に学習支援をするということで派遣をいただいていると思うのですけれども、生活習慣を身に付けさせるために派遣してくれているのだなと思います。家に帰ったら明日に向けて、今日やったことは何で、明日の時間表は何で、そうに揃えられるような生活習慣を指導をしていく、そういうふうな派遣授業になっているのではないかと。学習支援授業という名前は付いているけれども、そういうふうなことをするのがいい。そうでなければ、家庭教師を雇っているようなそんな意味合いと捉えがちで、子どもはそれでは嫌になってしまう。ここで学ぶ楽しさ、そういうものを感じられるような支援ができれば良いなと感じております。

高木市長

他にありましたら。

狩野委員

子ども達の学ぶ楽しさというお話なのですが、先生方が教える楽しさというか、教職員研修で、アクティブラーニングをされてみてはいかがかなと思うのですけれども。例えば、学ぶ楽しさを引き出さなければという使命感に燃えていたら、授業は楽しくないと思うのですね。教える楽しさというのも、少し楽しさを体験すると、す

ごく授業も楽しくなると思うのです。先生が元気でないと、あまり疲れるような仕事をしては困るので、是非学校教育課の方で、先生の心が、時には解きほぐれるような研修をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

学校教育課
長

ありがとうございます。私達もですね、管理的な立場ではありませんけれども、やはり先生方が生き生きと授業をして、子ども達が生き生きと育つと、これが第一だと思っております。その中でやはり授業を中心としながら、先生方にこんな良い授業ができますよ、こんなふうにできますよとか、学校の中でもですね、校長先生方、管理職の先生方は、先生方の良さを出し合いながら皆で学びあっている、そんな姿も見られます。是非、そういった形を頭に入れながら、校長会議、いくつかの研修会、そういったものを活用しながら、是非先生方が元気に授業ができる、そういった取り組みをしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

高木市長

やはり先生に元気が出なければ、子どもは元気が出ないですね。先生が疲れて、「はあっ。」とため息を吐いていたのでは、子ども達はよけい元気が出ないから、先生には空元気でもいいから、教室に入ったら元気に、学校に入ったら元気を出してもらおうように。

これまでも学校を回って時々見るのですけれども昔は教室形式っていうので、先生がいて、教壇に向かって皆並んでいる、今、輪っていうのですかね、輪のように囲むようにして、子どもの数も減ってきているからかもしれないけれども、そういうような学校もありましたけれども、そういうことで子ども達が色々議論、答弁しながら、会話をしながら勉強が深まっていく。環境もやはり教育内容を向上させるのに大事と思いました。

もう一つ、さっきも話がでていましたけれども、コンピューター、ICT、今の子ども達は慣れているからそういった物をもっと使って楽しい授業をしていくといいと思いました。それには、機材が必要だと思いますので、そういう機材が十分なのかどうなのか、教育長どうですか。機器材、テレビとかタブレットとか、色々あるのですが。

中沢教育長

ICTを使うと子ども達は非常に興味を引くきっかけになります。先生方は、教材作りをパソコンですることがかなりあります。それを映し出す装置が学校に十分あるといい。各学校のフロアに1台ずつということで、教室に行き届いていない面があると思います。それが各教室に入っていたり、特別教室に入っていたりすればいいと思います。これは、教師の心の叫びのようなものがあると思います。各教室に、テレビというよりモニターですね。モニターがあって、それを映し出すためのパソコンがあり、あるいはプロジェクターでもいいのですが、そういうICTがあれば知らせる、活用できる状況で、子ども達はタブレット、最近は非常に身近な物ですので、それを上手く活用した授業というのも、これは、可能性とすると非常に広いのです。教師のタブレットを活用した研修というのも、十

高木市長	<p>分必要となってきますが、まずは自分で使わないとどういう活用ができるかということがわからないので、教師だけがそういうところから後れていくことはできません。是非時代の流れに乗って活用ができるの良いなあと思いますし、本当に前では考えられないような授業の展開が想定できます。タブレットを使って、子どもが写真を撮ったものが全ての子のタブレットに映し出されたり、モニターに映し出されたり、或いは、インターネットと繋がっていれば、わからないところがあればそこをクリックしたらそこが出てきたり、個に応じることができたりすると思います。タブレットで体育のマット運動などを撮影して、その場で見てお手本と比べる、そういうこともできますし、本当にしゃべりきれないほどの、想像しきれないほどの展開が予想されるのが、今のICTの状況だと思います。渋川の状況はと言われたら、無いわけではないですけれども、この辺を先んじて出していくということは、教育を活性化する、教師の楽しさをも刺激する、そういう活力になると、私は感じております。</p> <p>学ぶ楽しさを身につけることが学力向上に繋がる、皆さん共通の理解だと思います。学ぶ楽しさをわかって、理解してもらうのにICTを使うというのは相当なものがありますので、教育長の話にもありましたけれども渋川市、学校の現場に、教育の現場にICTを積極的に導入していければと思います。これから来年度予算編成も始まりますので、そういったところに力を入れていきたいと思えます。</p> <p>他にありますか。よろしいですかね。</p> <p>まあ、今回は、学力向上対策と、対策というとは何か役所言葉でまた勉強嫌いになってしまいますので、対策という言葉は使わないで、楽しく学力、楽しんで学ぶ楽しさを身につけて、学力を向上させようということになればと思います。そのために学校の先生も楽しく仕事に望んでもらうといひますか、子ども達も元気に学ぶ、学んでもらうとそういうことで教育都市渋川を盛り上げて行きたいと思ひます。</p> <p>そんなところで、今日の総合教育会議は終わりにしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。</p>
------	---

6 その他

高木市長	他に何かありますか。
委員	特にありません。
高木市長	<p>これからのことですがけれども、公民館と行政センターというものが各地域にあるのですけれども、これを少し一体化していければと考えていまして、また、公民館を市長部局が担うとか色々行政法も変わってきておりますので、教育と行政が連携をしていく、そういうことが必要ではないかなあと思ひます。色々定数も限られておりますので、そういう中で、行政センターと公民館が協力しながらや</p>

高木市長	<p>っていくことが必要かなと思っておりますので、また、皆さんのご意見を伺っていきたいと思っています。考え方がまとまったら協議の場に出していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上を持って今年度第1回の総合教育会議を終わりにいたします。長い時間、ありがとうございました。</p>
------	--

7 閉会

新政策課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第1回渋川市総合教育会議を閉会させていただきます。</p>
-------	---